

(6) ・「七月」^{〔七〕}
□ □

・□ □

□

(39) × 38 × 5 081

(2)の「若狭国遠敷郡」は現在の福井県小浜市周辺にあたる。(3)(4)の「近江国浅井郡」は琵琶湖の北東で、現在の滋賀県東浅井郡周辺である。(3)の上端は表面から小刀で切り込んだ後に折っている。又、下半の「郡田根郷」部分の両側縁は、文字の一部が削り取られており、下端は二次的に尖らせたものと思われる。(4)の上端も切り込みを入れた後に折られている。(5)の「益田郷」は所属する国郡名を明確にすることができないものの、(3)(4)に示された近江国浅井郡の中にも益田郷が存在することから、これも同国のものと思われる。

9 関係文献

柏原市教育委員会『安堂遺跡』(一九八七年)

(桑野一幸)

本簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 稗田遺跡——下ッ道——長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡(三)

平城宮跡(第二次・第二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

池田 温

庸米付札について

狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に——

志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円